

リハビリテーション科学研究

[実習] 第2学年 前期 必修 8単位

《担当者名》各研究分野の指導教員

代表 高橋尚明 nao-takahashi@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

リハビリテーション医学や学際的な科学に関して、多面的かつ包括的に研究について学び、実践し、研究データに沿った学術性の高い論文を作成する。

【学修目標】

一般目標：生体構造機能・病態解析学分野、リハビリテーション治療学分野、地域健康生活支援学分野の3分野にわたる研究の特徴を学ぶ

行動目標：

1. 人体の構造と運動機能について、肉眼解剖学的手法を用いて考察し、リハビリテーションに必要な機能解剖学に関する研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。
2. バイオメカニクスをはじめとする運動学的手法を用いて、ヒトの身体運動・動作の特性やその発現機序に関する研究指導を行う。
3. 筋骨格系を中心とする身体組織の可塑性について、特に身体の活動時/非活動時における適応変化の分子メカニズムを解明するため、運動生理学、生化学、神経生理学、および分子生物学的な解析手法を用いた研究課題に関する指導を行う。
4. 呼吸・循環・代謝疾患に伴う運動病態生理学の理論や新知見をベースに、これらに対する新たな評価法や治療法の開発に関する研究指導を行う。
5. 高次脳機能障害の各症状を、神経心理学的手法を用いて研究する。特に行為・動作の障害について詳細な分析を行う。
6. 地域在住高齢者の生活環境支援並びに積雪寒冷地における介護予防を研究課題とし、両課題に対する具体的な方策に関する研究指導を行う。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|----------------|--|------|
| | 生体構造機能・病態解析学分野 | 人体の構造と運動機能について、肉眼解剖学的手法を用いて考察し、リハビリテーションに必要な機能解剖学に関する研究の実践、指導を行い、論文指導を行う。 | 下村敦司 |
| | 生体構造機能・病態解析学分野 | バイオメカニクスをはじめとする運動学的手法を用いて、ヒトの身体運動・動作の特性やその発現機序に関する研究指導を行う。 | 小島 悟 |
| | 生体構造機能・病態解析学分野 | 筋骨格系を中心とする身体組織の可塑性について、特に身体の活動時/非活動時における適応変化の分子メカニズムを解明するため、運動生理学、生化学、神経生理学、および分子生物学的な解析手法を用いた研究課題に関する指導を行う。 | 山口明彦 |
| | 生体構造機能・病態解析学分野 | 肉眼解剖学的手法ならびにバイオメカニクス手法を用いて、ヒトの運動器をはじめとする身体構造について形態と構造、機能を考察し、疾患の病態を構造学的・運動学的に解明する方法について研究指導を行う。 | 高橋尚明 |
| | 生体構造機能・病態解析学分野 | 分子生物学、生化学および薬理学的手法を用い、胚性幹細胞（ES細胞）から聴神経や内耳有毛細胞を産生する分子メカニズムを明らかにする。この成果を、感音難聴に対する再生治療の基盤技術の確立と臨床応用に関する研究開発へと進める。 | 下村敦司 |
| | 生体構造機能・病態解析学分野 | 先天異常疾患の機序解明に向けて、遺伝学的、またはエビジェネティック的分子機構を、分子生物学的手法を用いて解明する。 | 太田 亨 |
| | リハビリテーション治療学分野 | 呼吸・循環・代謝疾患に伴う運動病態生理学の理論や新知見をベースに、これらに対する新たな評価法や治療法の開発に関する研究指導を行う。 | 澤田篤史 |
| | リハビリテーション治療学分野 | 呼神経生理学、バイオメカニクス的手法を用いて、運動器疾患や中枢神経疾患に対する効果的なリハビリテーション的介入方法を探究する課題の研究指導を行 | 吉田 晋 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|----------------|---|-----------|
| | | う。 | |
| | リハビリテーション治療学分野 | 精神障害者に対する作業療法介入の実践や精神科リハビリテーションに関する課題の研究指導を行う。 | 浅野雅子 |
| | リハビリテーション治療学分野 | 高次脳機能障害の各症状を、神経心理学的手法を用いて研究する。特に行為・動作の障害について詳細な分析を行う。 | 中川賀嗣 |
| | リハビリテーション治療学分野 | 失語症および高次脳機能障害に関する症状、評価法、病巣、障害メカニズムの解析、リハビリテーションに関する研究指導を行う。 | 田村 至 |
| | リハビリテーション治療学分野 | 発達障害や神経心理学的症状に関して、実験心理学的手法をもちいた評価、その結果に基づく支援法を研究する。特に症状(行動)から認知機能、そして脳機能(神経基盤)の理解へとつなげて考察できるように研究指導を行う。 | 橋本竜作 |
| | 地域健康生活支援学分野 | 「作業遂行」や「作業参加」ができない(作業機能障害状態)対象者に対して、作業行動学的観点に基づいた計量学的根拠を持つ評価法の開発、ならびに効果的な治療や援助方法の確立を目標とした調査・比較研究等に関する指導を行う。 | 鎌田樹寛 本家寿洋 |
| | 地域健康生活支援学分野 | 地域在住高齢者の生活環境支援並びに積雪寒冷地における介護予防を研究課題とし、両課題に対する具体的な方策に関する研究指導を行う。 | 鈴木英樹 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

論文の執筆100%

【備考】

各研究分野の中から研究内容を選択し、指導教員の研究指導を受けながら研究を実践し、修士論文にまとめる。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

研究成果を学術的に発信できる能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期(修士)課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関における臨床経験および大学における教育・研究経験をもとに講義・指導する。

医療機関ならびに大学における教育・研究・臨床経験をもとに研究指導を行う。